

# 天沼小だより

文責

校長 大里 忠弘



## 全国学力調査、無事終了

5月27日(木)「全国学力・学習状況調査」が行われました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が中止となりましたが、今年度は当初予定されていた4月20日から延期され、この日実施されました。



本校の6年生たちも、国語と算数の2教科、そして、学校や家庭での勉強や生活の様子について答える「児童質問紙」の問題に真剣な眼差しで取り組みました。

調査の結果は、後日、教育委員会を通じて学校へ届けられます。その資料を分析し、日々の授業や研修などの様々な場面で活用し、児童の学習状況の改善につなげることになります。

## 雑で読めない子どもの字

子どもの書く文字が雑、と悩む保護者の皆さんはおられますか。字が雑なことで、テストの解答が正しく判読されず、減点されてしまうことも。連絡帳や宿題の見直しもひと苦労です。上手でなくてもいいから、ていねいに書いて欲しいというのが保護者の願いです。

こう悩むのは、実は担任の先生も同様です。あまり細かく、厳しく指導するのは子どもの感性や伸びる力を潰しかねません。担任は、あの手この手で子どもへの指導を試みています。

1年生は学校でノートをとるようになります。初めは、字の練習ということで、1マス1マス丁寧に書いていた文字。でも、徐々に慣れてくると、だんだん雑さが目立ってきます。字が雑だと、テストの解答を読み間違われたり、自分で書いた字が読めずに慌てたり、相手に伝えたいことが正しく伝わらなったりします。

一説によると、頭の回転が速い人は字が雑になるという考えもあります。頭の回転が速くて、それに合わせて字を書くと雑になってしまうということみたいです。せっかく勢いよく頭が回転しているのなら、無理矢理ゆっくり書かせることで、その勢いを止めてしまうのももったいない気がします。

字が雑なことを何度も叱ったり、書ける字を改めて書き直させたりすれば、子どもは勉強自体を嫌いになってしまいます。単純に字が雑、という現象だけでなく、どうして雑な字を書くのかという過程を考えてみる必要があると思います。頭の回転の速さのためならば、そんなに心配する必要は無いかも知れませんが、書くのが面倒くさいなどの理由であれば、字を丁寧に書くことのメリットを教えてあげると良いと思います。

あなたの書いている「う」は「ろ」に見えるね。この「0」は「6」に見えるね。など、第三者の視点で、その字を読む人からどう見えるかを伝えることで、子どもに気づかせることができます。

子どもが迷う声かけは、「もっと丁寧に字を書きなさい」です。具体性が薄く、何をしたら良いかが分かりにくい。しかも命令的です。子どもにとっては反発を感じてしまう声かけです。

保護者や先生が「字をきれいに書いてくれて、うれしいな」という思いを伝えるのも、子どもの「字をきれいに書こう」という気持ちを高める声かけです。喜んでもらえる、ほめてもらえるというのは、子どものやる気をかき立てます。

好奇心を持って楽しく、精力的に勉強しているのであれば、字が雑ということはそんなに問題ではありません。字をきれいに、丁寧に書くということは読み手への思いやりなのだとすることを気づかせてあげたいです。それに気づけば、雑な字も変わってくるかも知れません。